



## 政治がわかる！せとけん政治塾 ⑫

### 日本を変える、世界が変わる～

### 総選挙を目前に日本のあるべき姿を考える



瀬戸健一郎

英国国立エセックス大学政治理論修士過程修了／  
獨協大学法学部卒／衆議院議員 山川ゆりこ（妻）  
事務所長／日本マルタ友好協会会長／（一社）日  
本 CBMC 副理事長／元・草加市議会議員（6期）  
～議員団長、議長、監査委員、全国市議会議長会  
評議員等歴任／1981年米国聖公会で受洗／草加  
神召キリスト教会所属／信仰と学問的知識及び  
30年余の政治経験を活かし、日本を変え、世界  
に平和をつくる活動を夫婦で展開している。

この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一

新によって自分を変えなさい。  
（ローマ十二・2）

たつた三年半の公生涯で世界を変えた主イエスにならう者として、こ

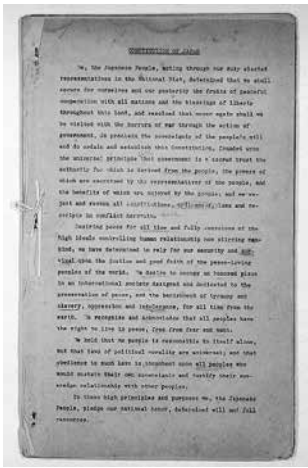
の地に御国を来たせたまえと常に心の一新によってこの世と向き合

や既成概念を打ち破ることが可能となり、その先に、社会変革や果たすべき主にある政治家としての使命が開かれていきます。本稿では、コロナ禍の中で初めて迎える衆議院総選挙を目前に、日本のあるべき姿をクリスチャン政治家として考察しながら、日本が世界にもっと積極的に貢献していく国家観を論じてみたいと思います。

## マッカーサーの勘違い

日本の戦後占領政策の中で、

ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム（WGIP）と呼ばれる、徹底した情報統制教育プログラムの戦略的に推進されたことは前号で議論しました。東京裁判が日本人に戦争に対する罪責感（ウォー・ギルト）を浸透させるための本舞台であったことは事実ですし、東京裁判史観は今も日本人に深く浸透しています。また、日本国憲法がマッカー



マッカーサーによる憲法草案（英語原案）

サー総司令部によつて約一週間で草稿された英語版の原案（ドラフト）をベースに草案されたことも、公開されている数々のGHQ機密文書から明らかな事実です。しかしここで、私たちはこれらをマッカーサーの日本占領計画の前半、後半と区別して再検証する必要があります。

もしも、すべての日本人を対象に、政治的、政策的、恣意的に植え付けられたウォー・ギルトという罪責感（＝罪の意識）が今も、現代の日本人を縛っているのだとすれば、これが潜在的に日本人のアイデンティティやセルフイメージをこれからも傷つけるかもしれません。ですから、WGIPの見えない呪縛や影響から日本人を解放することが重要であり、日本人が日本人としての健全なセルフイメージを再構築するためにも、私たちは歴史の真実を学ぶ必要があります。

実は、マッカーサーは熱心なくリスチャンでもあったので、日本人をキリスト教化すれば、日本人は平和的な国民になるだろうと考えていたようです。何人もの宣教師を日本に招聘し、WGIPと福音宣教を彼の占領政策の両輪のごとく動かそうとしたのだと私は考えています。しかし、片側で徹底的に罪責感（＝罪の意識）を植え付ける非情な計画を実行しながら、片側で福音宣教を推進するというのは甚だ矛盾したやり方であったと思います。結果的に戦後の日本におけるキリスト教宣教の根底には、徹底した戦争に対する罪責感（ウォー・ギルト）が入り込み、

自分たちは決して赦されないという思いや深い罪の意識が悔い改められない限り地獄に堕ちますよといった文脈で布教活動が一部展開されていたようです。ここには、喜びも自由も解放もありません。

米国への高校留学中に導かれ、受洗して帰国した私は、感覚的に日本のクリスチャンや教会の雰囲気の違いを感じ取っていました。すべての罪咎からの自由と解放を得た喜びを全身全霊で表現するアメリカのクリスチャンと、まだどこかで罪咎を引きずっているかのような日本のクリスチャン。批判を恐れずに言えば、そんな雰囲気の違いを私は感じてきました。ですから、WGIP



日本国憲法

からの靈的、精神的な解放は、日本における福音宣教の一丁目一番地の課題なのではないでしょうか。ここに「心の一新によつて自分を変えなさい」という御言葉が、日本人が日本を変えるために必要な教訓として示されていると感じます。

### 神が日本に賜った贖いの賜物

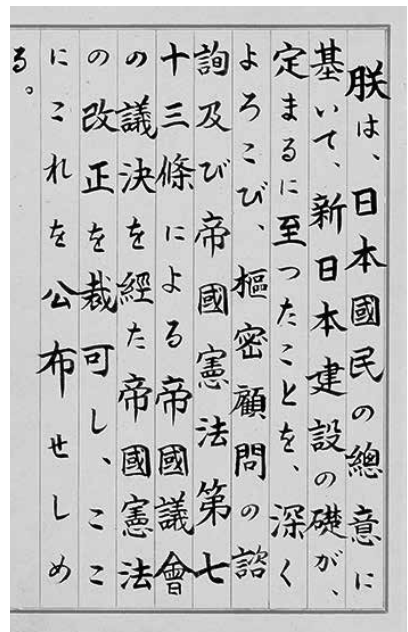
さて、マッカーサーによる占領政策の仕上げとも言えるWGIPに続く後半部分も論じてみたいと思います。マッカーサーが一週間で草稿したにせよ、その原案が英語であったにせよ、日本国憲法によつて文脈化された理想の平和国家があるべき姿は、日本人が自ら選択した国家理念だということをまず忘れてはなりません。この理念と理想に向けて、日本は二度と戦争しない平和国家として、戦後七十六年もの歳月を積み重

ねてきました。平和を希求する国民性が再び開花したわけですから、WGIPは日本人の意思ではありませんでした。日本国憲法は日本人の意思だと言えるのです。

日本人は元来、平和を希求する国民性を持つていました。戦国時代という戦乱の時代はありましたが、

その後、明治維新まで約二七〇年もの長きに亘つて、日本人は戦争や紛争のない平和な時代を謳歌しました。同時期の世界の情勢を見渡しても、そのような国家は他には見当たらない程です。正に天下泰平の治世は開国と明治維新によつて破られ、その後、太平洋戦争終結まで、日本は戦争に次ぐ戦争を繰り返しました。それは約七十五年間の出来事に過ぎません。二〇一八年に明治一五〇年記念千円銀貨が発行されましたが、明治一五〇年という時、その前半は戦争の時代、そしてその後半以

日本国憲法の上諭



降は今日に至るまで、正に平和の時代を私たち日本人は取り戻しつつあるということなのです。

マッカーサーはそんな日本の歴史や真の国民性を知つてか知らずか、戦後の日本を理想の平和国家として再生させようと決意しました。だからこそ、憲法草案を短時間で集中的に書き上げることが出来たのだと思います。終戦直後の困難な国際情勢の現実を考慮する必要さえなかったのではないのでしょうか。そのお陰で、崇高な理念と理想が凝縮した憲法草案が仕上がつたのです。そして、こ

の理念と理想を受け入れ、これを設計図とする国家を再建する強い意志を決めたのは、マッカーサーではなく、私たち日本人です。ですから日本国憲法について、私たち日本人は自虐的になる理由はありません。日本国憲法は、私たち日本人が今も基盤としている国家の理念規定なのです。

以上の議論から、日本を変える第一のポイントは、マッカーサーの占領政策の負の遺産とも言えるWGIPの悪影響を断ち切ることで、その上で、日本人が本来持っている

お互いに思いやり平和を希求する心、欠乏しても分かち合う心、自分よりも家族や他人を尊重する利他の精神や自己犠牲の精神といった国民性に根ざした、日本人としての健全なセルフイメージを再構築したいものです。

この性質は、実は至極聖書的な価値観なのであって、このようなものを国民全体で日常的に享受している国民は世界でも稀有であることに、私たちは覚醒すべきだと思うのです。これこそが、神が日本国と日本人に賜った「贖いの賜物」なのではないかと感じます。日本人が目醒め、健全なセルフイメージを復興させることができれば、主の霊がもつとストレートに日本人の中に吹き抜けるのではないのでしょうか。「その時には顔と顔を合わせて見るようになります。」(1コリント十三・12)

日本に大リバイバルが来る予感

ジューイッシュ・エージェンシー



が致します。

### 異母兄弟の和解をとりなす

さて、日本人がいかに聖書的な価値観を体現する国民性を示そうと、日本に歴史的、文化的、民族的に「贖いの賜物」が神から与えられていようと、日本人が聖書信仰に立

たない限り、聖書に記された歴史的、文化的、民族的な文脈を、日本人が味わい知ることは出来ません。しかし、日本人が聖書信仰に目醒め、聖書を土台としたこの世の様々な働きに召されるようになれば、日本人はきつと大きな貢献と影響力を世界に示すことになると思います。

例えば十字軍の歴史に遡る血塗られた殺戮の連鎖から隔絶された独自の歴史を紡いできた日本は、世界の主要国の中では稀有な存在です。だからこそ、日本こそが中東和平の

仲裁国として相応しい働きができるだろうと考えます。幸いにも日本はイスラエルと良好な関係にあり、まだ国家承認には至ってはおりませんが、パレスチナ国(暫定政府)とも良好な関係を構築してきました。歴史的にも、民族的にも、宗教的にも、ユダヤ人とパレスチナ人双方と等距離外交を展開してきたのも日本

だけだと言えます。だからこそ、日本のクリスチャンが中東問題の中核であるエルサレムの平和のために祈り(詩篇一二二・6参照)、アブラハムを共通の父祖とするイサク、ヤコブの系譜とイシュマエルの系譜の間に深く刻み込まれたお互いに対する敵意を廃棄させ(エペソ二・15参照)、歴史的、聖書的な和解と一致を実現する仲裁者としての役割を担うことができれば、それは主の召命だと言えるのではないのでしょうか。

皆さんはこれを夢のような話だと思われるでしょうか。日本が変わり、世界情勢における立ち位置を独自に決めることが出来るようになるれば、世界が変わると私は信じています。日本は一億人もの勤勉で生産性の高い日本国民によって支えられているからです。日本経済はこの一億人の労働の果実によって支えられる内需主導型

ジェリコ・アングロ・  
インダストリアルパーク (JAIP)2018



経済の役割が多面で、景気の底支えが独自に可能な国なのです。しかし、過去には大規模な金融緩和や財政出動によって市場に資金が潤沢に溢れていたのに、これが米国債に当てられたり、投機的な資金として運用され（たりしたのでは）、日本人一人の経済的な果実が流出し、経済指

### 日本が変わると世界が変わる

標に現れる株価の底支えは可能でも、内需は実質的に拡大されず、国民の実質所得も低下して、経済も景気も改善されませんでした。

それよりは静岡県で反対運動が

起きてはいるものの、東京⇄大阪間を一時間で結ぶリニア新幹線などのインフラ投資の方が、建設工事に従事する人々の経済を潤し、完成した新たなインフラが新たな経済成長の原動力に繋がります。国が治療薬の開発に偏重した製薬業界の、予防薬開発や基礎研究にもつと財政支援すれば、国産ワクチン開発も欧米並みにスピーディーに進み、途上国へのワクチン提供といった独自支援策も実現することができるのです。また日本社会の高度なデジタル化対応への投資も新たなビジネスチャンスを得

創出するでしょうし、その果実を何よりも日本国民全体が享受することに繋がります。

これらを抑制している負の影響がWGIIPによるものであり、これを基盤として共有している今の日米関係なのだと私は考えているのです。

ニッポンの底力には、日本人を幸せにするばかりでなく、世界人類に大きく貢献し得るポテンシャル（潜在力）があります。日本人が健全なセルフイメージを再構築し、福音を素直に受け取るころから、日本のリバイバルが始まるような気がします。何をやってもどこかの外れな日本政治を眺めていると、私は残念でなりません。主イエスと顔と顔を合わせると、健全なセルフイメージが必要で、日本に与えられた「贖いの賜物」が開花することによって、日本人は健全な国家観を取



り戻すことができると信じます。その時、日本を変える、世界が変わる、そのような主にある使命を私たちは果たすことになるでしょう。

今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ているますが、その時には顔と顔を合わせて見ることにあります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることにあります。

祈りつつ

(1コリント十三・12)

